

15 年度通期 決算説明会 質疑応答要約

Q) 通信・プリンティング機器の 15 年度第 4 四半期の売上が現地通貨ベースで 4%のマイナスとなっているが、その要因は何か？

A) 第 4 四半期が良くなかったのは、基本的にはチャネル要因によるものであって、セルアウトはそれほど落ちてないと考えている。

Q) LBP の市況が悪いようだが、市場状況、競争状況など、16 年度の業績予想の前提を教えてください

A) 本体、消耗品は成長を見込まない前提で計画を立案している。ハードの台数は伸びを期待しているものではないが、消耗品については、売上を落とさないような取り組みを進めていきたい。

Q) 16 年度はマシナリー事業の収益性が下がる見通しだが、要因は何か？

A) 産業機器の減収による影響が大きい。産業機器は粗利率が高いので、売上が減ると粗利の減少も大きい。また、中期戦略で成長分野として位置付けてということもあり、先行投資として研究開発費などの費用が増える影響も織り込んでいます。

Q) N&C 事業は多角化事業の中の一つという位置付けで進めてきたと思うが、新製品投入があっても業績は悪かった。現在の事業ポートフォリオの中における存在意義に変化は無いのか？

A) 現時点では、カラオケ事業をキャッシュカウビジネスにするという考え方は変わっていない。これまでは、カラオケ以外の部分でビジネスを伸ばそうとしてきたところに無理があったと思っている。今後は、キャッシュカウと利益貢献という役目を達成し、安定したキャッシュフローを産むビジネスとしていきたい。なお、今日現在は赤字ということを実際に受け止めており、しっかりとした体制をこの 1 年間で作り上げたいと思っている。

Q) 16 年度のドミノ事業の実質成長率はどれくらいで見ているのか？

A) 見通しの前提としては、コーディング & マーキングは一桁前半%、デジタルプリンティングは 15%超の成長を期待している。今の経済状況を考えると成長は難しくみえるが、既に様々な施策を実施しており、達成可能な計画だと思っている。

以上